

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】 第 3 部門第 3 区分
 【発行日】 平成 18 年 11 月 24 日 (2006.11.24)

【公表番号】 特表 2002-531654(P2002-531654A)
 【公表日】 平成 14 年 9 月 24 日 (2002.9.24)
 【出願番号】 特願 2000-586800(P2000-586800)
 【国際特許分類】

C 0 8 G 77/08 (2006.01)
C 0 8 F 283/12 (2006.01)
C 0 8 G 77/28 (2006.01)
C 0 8 L 25/12 (2006.01)
C 0 8 L 51/08 (2006.01)
C 0 8 L 101/00 (2006.01)

【F I】

C 0 8 G 77/08
 C 0 8 F 283/12
 C 0 8 G 77/28
 C 0 8 L 25/12
 C 0 8 L 51/08
 C 0 8 L 101/00

【手続補正書】
 【提出日】 平成 18 年 10 月 3 日 (2006.10.3)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】 明細書
 【補正対象項目名】 特許請求の範囲
 【補正方法】 変更
 【補正の内容】
 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 オクタメチルシクロテトラシロキサンと γ -メルカプトプロピルトリメトキシシランとの反応で得られる体積平均粒度 400 nm $\sim$ 2 ミクロンのシリコーンゴム粒子とアルケニルポリマーシェール 15 $\sim$ 75 重量%とからなるシリコーンゴムグラフト共重合体

【請求項 2】 シリコーンゴム系グラフト共重合体の製造方法であって、

(1) 50 $^{\circ}$ C $\sim$ 95 $^{\circ}$ C の温度で、(A) オクタメチルシクロテトラシロキサンと γ -メルカプトプロピルトリメトキシシランとの反応で得られる体積平均粒度 400 nm $\sim$ 2 ミクロンのシリコーンゴム粒子を含む pH 3 $\sim$ 9 の水性シリコーンゴムラテックスと (B) 少なくとも 1 種の重合性アルケニル有機単量体を含む水性混合物との反応を、当該グラフト共重合体の合計重量を基準として 15 $\sim$ 75 重量%のアルケニルポリマーシェールを形成するのに十分な比率の混合物 (B) を用いて、実施する工程、

(2) 工程 (1) で得られたラテックスを凝固させる工程、及び

(3) 得られた固形物を回収し、洗浄し、しかる後に乾燥させる工程を含んでなる方法。

【請求項 3】 前記 (B) の水性混合物が重量比 90 : 10 $\sim$ 50 : 50 のスチレンとアクリロニトリルを含む水性混合物である、請求項 2 記載の方法。

【請求項 4】 熱可塑性ブレンドであって、(C) 熱可塑性ポリマー、及び (D) 当該熱可塑性ブレンドの重量を基準として 5 $\sim$ 50 重量%の、オクタメチルシクロテトラシロキサンと γ -メルカプトプロピルトリメトキシシランとの反応で得られる体積平均粒度 400 nm $\sim$ 2 ミクロンのシリコーンゴム粒子とアルケニルポリマーシェール 15 $\sim$ 75 重

量%とからなるシリコーンゴムグラフト共重合体、を含んでなる熱可塑性ブレンド。

【請求項5】 前記熱可塑性ポリマーが、少なくとも1種のポリエステル、ポリカーボネート、ポリエステルカーボネート、ポリアミド、ポリエーテルイミド、ポリフェニレンエーテル、ポリスチレン、又はスチレンとアクリロニトリル、メタクリロニトリル、アクリル酸エステル若しくはメタクリル酸エステルとの共重合体、又はこれらの共重合体である、請求項4記載の熱可塑性ブレンド。

【請求項6】 前記熱可塑性ポリマーがスチレンとアクリロニトリルとの共重合体である、請求項4又は請求項5記載の熱可塑性ブレンド。

【請求項7】 スチレンとアクリロニトリルの重量比が90：10～50：50である、請求項6記載の熱可塑性ブレンド。

【請求項8】 熱可塑性ブレンドの製造方法であって、(C)熱可塑性ポリマーと、(D)当該熱可塑性ブレンドの重量を基準として5～50重量%の、オクタメチルシクロテトラシロキサンと γ -メルカプトプロピルトリメトキシシランとの反応で得られる体積平均粒度400nm～2ミクロンのシリコーンゴム粒子とアルケニルポリマーシェル15～75重量%とからなるシリコーンゴムグラフト共重合体とを混合する工程を含んでなる方法。